

中村系‘太秋’の特性

雄花の着生が少ない有望系統

1. 太秋は雌花の着生が安定しない



太秋は結果母枝上の全ての結果枝に雄花が着生することも珍しくない。

2. 中村系‘太秋’について

砥部町の中村氏のほ場で見つかった雄花が少ない系統。



3. 中村系‘太秋’の着花特性と果実品質

供試樹 : 6年生中村系‘太秋’3樹、17年生‘太秋’3樹(対照樹)

調査場所: 果樹研究センター カキほ場

表1 着花特性(2019、2020年の平均)

区分	雌(♀)花の着生数 (個/母枝)	雄(♂)花の着生数 (個/母枝)	雌花を着生しなかつた結果母枝の割合 (%)
中村系	8.2±1.8 ^{z)}	1.9±2.0	11.7±8.7
太秋	4.6±1.4	13.5±8.6	30.8±12.0

^{z)}平均値±標準誤差(n=3)

表2 果実品質(2019年10月23日)

区分	果実重 (g)	果皮色 ^{z)} (果頂部)	糖度 (°Brix)	へたすき ^{y)}	条紋果 ^{y)}
中村系	423	4.5	13.4	21.1	4.0
太秋	389	4.5	14.7	17.8	3.3
有意差 ^{x)}	ns	ns	ns	ns	ns

^{z)}カキ カラーチャート。^{y)}発生度合いを示す。^{x)}t検定でnsは有意差無しを示す(n=3)。

中村系‘太秋’は、果樹研究センターで増殖した個体についても雄花の着生数が少なく遺传的に雄花が少ない系統と考えられ、結実が安定する系統として期待される。